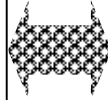


SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)について

メリット

- ・迅速な情報提供ができる。
- ・情報の共有や意見交換といった双方向でのコミュニケーションができる。
- ・「いいね！」やフォローすることによって話題が広がり、ロコミのような期待ができる。
- ・初期投資なしで広報することが可能である。



デメリット

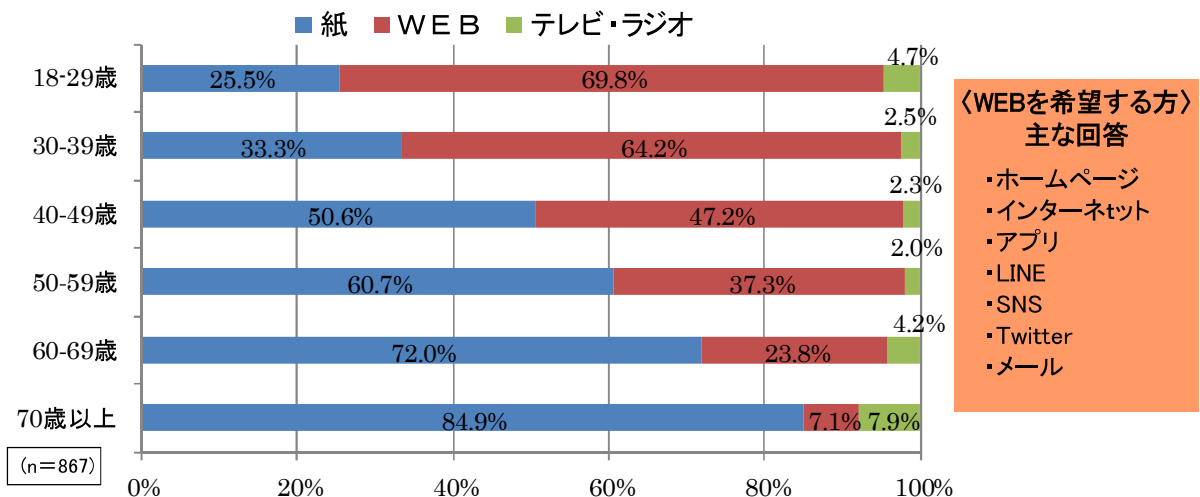
- ・頻繁に投稿やコメント、リツイート等に対応する必要がある。
- ・内容や書き方によっては「炎上(非難や批判、誹謗中傷が殺到する状態)」する危険がある。
- ・情報がすぐに拡散するので、削除してもWEB上に残る可能性がある。
- ・利用しているサービスの内容が、突然変更されるかもしれない。

主なSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の特徴

サービス名	
Facebook (フェイスブック)	フェイスブックページは登録したユーザー同士がインターネット上で情報交流を行ったり、ユーザーが企業や団体などのページともコミュニケーションを図ることができる。
Twitter(ツイッター)	140文字以内の短い文章を投稿、閲覧することができる。
LINE	無料でインターネット電話やテキストチャットでのコミュニケーションを行うことができる。 また、「LINE」と「LINE@」の2種類あり、「LINE」は個人でのメッセージのやり取りに、「LINE@」は多数の人へ情報発信に特化している。
Instagram (インスタグラム)	写真や短時間動画を簡単に共有することができる
YouTube(ユーチューブ)	インターネット上で動画を共有できる

データ どのような手段で市政情報を受け取りたいですか？(広報に関する市民アンケートより)

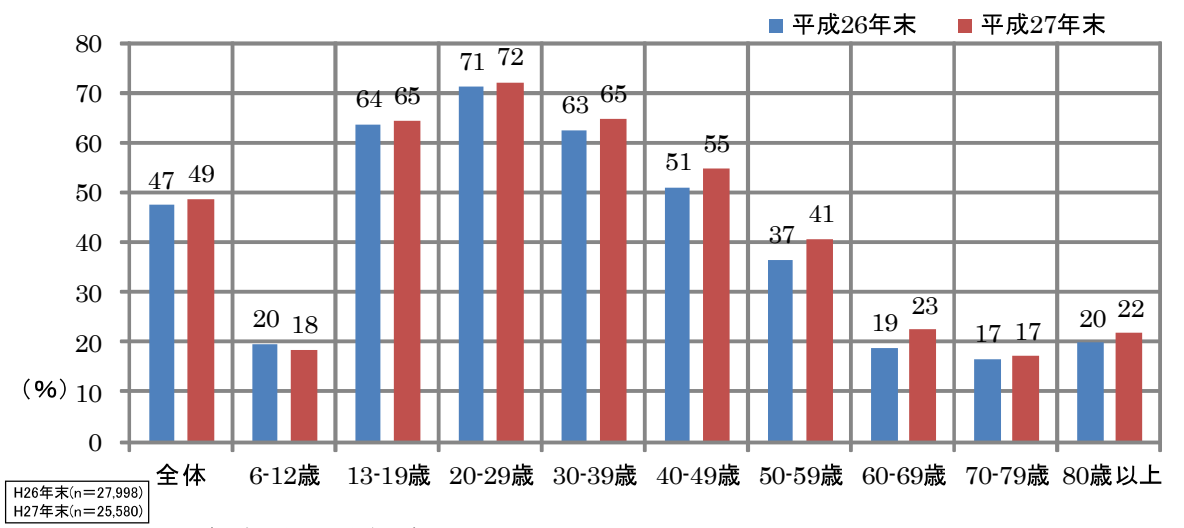
設問 【問24】あなたは、どのような手段で市政情報を受け取りたいですか。(自由記載)



SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の利用状況(全国)

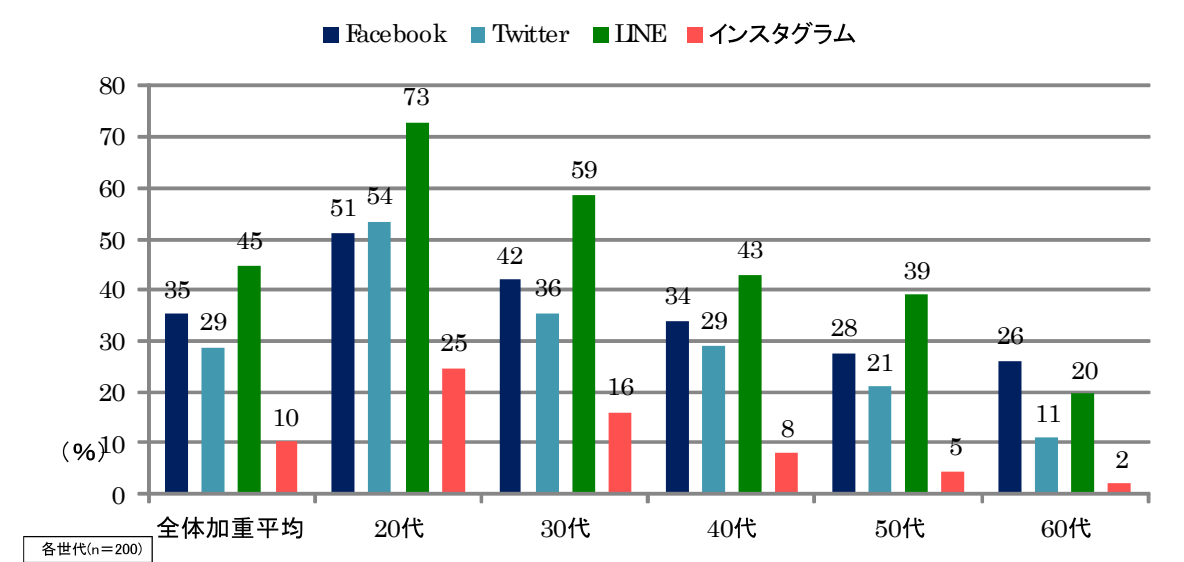
- 利用率は20歳代が一番多く、高齢になるにつれて利用率は下がっています。また、SNSを利用する人のうち60歳代以上を除く年代において、「LINE(ライン)」が一番多く利用されています。

データ1 年齢階層別 SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の利用状況



平成27年通信利用動向調査より
 (注)インターネット利用者に占める割合、ただし、平成26年末の数値はソーシャルメディアの利用者の割合

データ2 ソーシャルメディア別 利用状況



平成28年版 情報通信白書より (注)ソーシャルメディア利用者に占める割合

政令市におけるSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の活用状況

- アカウント数(※)に差があるものの、全ての政令市がSNSを活用した情報発信を行っており、特にFacebookが多く活用されています。また、同じ情報をFacebookとTwitterで発信するなど、サービスを併用しているところが見られました。

(※)…ネットワークやコンピュータにログインするための権利のこと。SNSを運用する管理者ごとに取得する。

◎各政令市のウェブサイトを確認できたアカウント数（作成時期 平成29年7月18日現在）

	Facebook (フェイスブック)	Twitter (ツイッター)	LINE (ライン)	Instagram (インスタグラム)	YouTube (ユーチューブ)
札幌市	7	7			1
仙台市	21	11			6
さいたま市	3	1	1		1
千葉市	6	7	1		1
川崎市	12	12			2
横浜市	20	33		1	1
相模原市	14	14	3	2	1
新潟市	44	12	2		1
静岡市	11	6			3
浜松市	13	5	2		4
名古屋市	68	18	3	2	6
京都市	66	29	1		1
大阪市	23	28	3		1
堺市	14	8			1
神戸市	78	23		7	1
岡山市	12	7	1	2	1
広島市	11	1			1
北九州市	39	7	1	3	16
福岡市	50	15	5	3	1
熊本市	2	1			1
計	514	245	23	20	51